

農林水産研究イノベーション戦略2024概要

イノベーション戦略の位置付け

- ・四半世紀前に制定した食料・農業・農村基本法が前提とする社会情勢等が変化している状況を踏まえ、「食料・農業・農村政策の新たな展開方向」や新しい農政の展開の全体像を策定。
- ・農林水産研究を政府一体となって推進することで、人口減少下でも生産を維持する供給基盤の確立、スマート農業等による生産性の向上、みどりの食料システム戦略による環境負荷低減に向けた取組等に貢献。

農林水産研究をめぐる最近の社会・経済や政策の情勢

(1) 国際的な食料需要の増加と食料供給の不安定化

- ・小麦、大豆、飼料作物等の安定的な調達が困難になる等の影響が顕在化。

(2) 我が国の経済的地位の低下

- ・中国が食料貿易のプライスメーカーとして台頭。
- ・輸入に大きく依存する穀物、肥料、飼料等の生産資材の買付競争が激化。

(3) 人口減少と高齢化に伴う農業者の減少

- ・20年後の基幹的農業従事者は30万人程度に急減。
- ・ロボット、AI、IoT等のデータを活用したスマート農業技術や新品種の導入の推進、安定した農業経営の育成が必要。

(4) 海外も視野に入れた市場開拓

- ・持続的な成長とリスク分散等の観点から、海外市場も視野に入れた農業・食品産業への転換を推進。

重点的に行う研究開発

(1) 人口減少に対応するスマート農林水産業の加速化

- ・国が実装まで想定した重点開発目標を定め、農研機構の施設供用等を通じた産学官連携を強化し、研究開発を推進。
- ・スマート農業技術に適合した生産方式の転換を促進し、人口減少下においても生産水準を維持できる生産性の高い食料供給体制を確立。

(2) 「みどりの食料システム戦略」の実現に向けた研究開発の加速

① 持続的な食料システム構築に資する研究開発

- ・カーボンニュートラルの実現、化学農薬や化学肥料の使用量の低減に貢献する研究開発を推進。

② 食料安全保障の強化と生産力の向上に資する研究開発

- ・海外依存度の高い品目の生産拡大や、省力的で安定的な生産の実現に向けた新品種・栽培技術等の開発の推進により、輸出拡大にも貢献。

③ 先端技術に対する理解の増進

- ・先端技術に対する理解と受容を促進し、若い世代へ積極的に情報発信。

(3) 「持続可能で健康な食」の実現

- ・日本食に関するエビデンスの集積や、魚、大豆、米粉等の国内生産を持続的に維持・拡大する研究開発を促進。

(4) バイオ産業市場獲得に貢献する研究開発

- ・日本独自のゲノム編集技術、高機能バイオ素材の創出、アフリカ豚熱ワクチンの開発等、関係府省が連携して新たなバイオ産業を創出・育成。

研究開発環境の整備

(1) 産学官共同連携拠点の整備

(2) スタートアップ支援の強化

(3) 知的財産マネジメントと国際標準化の強化

(4) 国際連携による研究開発の推進と成果の応用

(5) 異分野を含めた人材確保

(6) 研究インテグリティの確保の徹底